

平成 12 年 7 月 17 日
第四管区海上保安本部水路部

海 洋 概 報 (第 1 号)

(伊勢湾流況調査)

1 調査概要

調査期間	流況調査	: 平成 12 年 6 月 20・27 日及び 7 月 4 日
	流況調査	: 平成 12 年 6 月 15・22 日
調査海域	伊勢湾	
	流況調査 及び流況調査	測点 (別図参照)
調査船	測量船「いせしお」	
現地調査員	水路部 水路課 海象係長	木村 琢磨
	” ” 測量係長	瀬田 英憲
	” ” 海象係員	山崎 哲也
	” ” 測量係員	清野 孝幸
	測量船「いせしお」船長	山本 常夫
	” 機関長	石原 信雄
	” 航海士補	渡部 千尋
	” 機関士補	福嶋 力
	京都大学 助手	笠井 亮秀
	” 博士課程 3 年 (学生)	高橋 鉄哉
	” 博士課程 2 年 (学生)	山尾 理
	” 博士課程 1 年 (学生)	筧 茂穂
	” 4 回 生 (学 生)	辻 秀泰
調査項目	流況調査	: 水温・塩分
	流況調査	: 水温・塩分・透明度
資料整理	海象係長 木村 琢磨	海象係員 山崎 哲也

2 観測経過

6 月 15・20・22 日及び 7 月 4 日は、天候・海上模様共に良く、6 月 27 日は風が強く雨模様の悪天候であったが、全測点の調査を実施することができた。

3 海況（成果は別図参照）

流況調査（伊勢湾北部）

6月20日

水温： 表面は、中央部が平年にくらべ2～3 高く、北部及び南部は、平年にくらべ3～5 高かった。

10m層は、平年にくらべ1 程度高かった。

底層は、中央部はほぼ平年並みであるのに対し、知多半島沿岸及び三重県沿岸は、平年にくらべ2～3 高かった。

塩分： 表面は、中央部南側に平年にくらべ1程度高い2.8の範囲が広がっていたが、他の地点は、平年並みであった。

10m層は、平年にくらべ全般的に1程度高かった。

底層は、ほぼ平年並みであった。

6月27日

水温： 表面は、平年にくらべ1～2 高かった。

10m層は、平年にくらべ全般的に3 程度高かった。

底層は、知多半島沿岸は、平年にくらべ2～5 高く、三重県沿岸部は、2～4 高かったが、中央部はほぼ平年並みであった。

塩分： 表面は、北東部が平年にくらべ1～4低かったが、他の地点については、ほぼ平年並みであった。

10m層は、ほぼ平年並みであった。

底層は、北東部は、平年にくらべ1～3低かったが、他の地点については、ほぼ平年並みであった。

7月 4日

水温： 表面は、平年にくらべ2～4 高く、特に南西部では、3～4 高かった。

10m層は、南部が平年にくらべ1～2 高かったが、他の地点はほぼ平年並みであった。

底層は、知多半島沿岸及び三重県沿岸で平年にくらべ1 程度高かったが、他の地点は、ほぼ平年並みであった。

塩分： 表面は、北東部が平年にくらべ1～4高かったが、他の地点については、ほぼ平年並みであった。

10m層は、全般的に1程度高かった。

底層は、ほぼ平年並みであった。

流況調査（伊勢湾）

6月15日

水温： 上層は平年にくらべ1 程度高かったが、底層は、ほぼ平年並であった。

塩分： 湾北部上層は、平年にくらべ2～3高く、湾南部上層は、ほぼ平年並みであった。

下層は、33の等値線が平年にくらべ10m程上昇していた。

6月22日

水温： 上層は平年にくらべ2～4 高かったが、底層は、ほぼ平年並みであった。

塩分： 全体的にほぼ平年並みであったが、St. 5の表層付近に、低塩分水が見られた。

6月15日と22日の比較

St. 1～St. 2の5～10m層が高温低塩分水化していた。また、St. 2の表層が、高温低塩分水化していた。

St. 5～St. 6の表層付近も、高温低塩分水化していた。

* 使用した平年値は、「三重県水産技術センター研究報告第6号（平成8年10月）伊勢湾における海況の季節変化」に基づいている。